第 12 分科会　指導員にかかわる課題②
指導員の職場づくりと指導員組織

世話人　岡本明美（滋賀・指導員）
藤井良重（佐賀・連協役員）

指導員の仕事に必要とされる「職場づくり」や指導員の「連携や協力」「学び合い」の実態を交流して、課題を確かめ、指導員同士が学び、支えあうための指導員組織の必要性やあり方について学びます。

大規模化、障害のある子どもの受け入れなどにより、１か所あたりの指導員数が増え、また、「午後から勤務」「ローテーション」勤務の指導員が増えています。さらに、指示されている仕事内容の違い、勤務体制や身分、労働条件の違い、就職理由の違いなど、同じ学童保育で働く指導員でも意識や仕事に対する理解や意欲などもさまざまです。

本来、学童保育で主たる立場にある指導員は、専門的な知識と技能を身につけた有資格者が、保育時間前後に必要な準備ができるよう、常勤職員として働きつづけることを支える処遇であることが必要です。こうしたなかで、「保育前後の打ち合わせや記録を書くための時間が自分にはあるが、同僚にはない」「子どもたちとのかかわりについて十分に話し合う時間が取れない」「立場の違いから、子どもへの理解が異なる」という状況も生まれています。

また立場の違いによって、行政に改善を要求する場合もなかなか要求が一致しないことも多くあります。学童保育を拡充していくうえで、地域の指導員たちが共通認識を持ち、協同・協力していくことが求められます。

職員一人ひとりが社会人としての常識、規範を身につけていることを前提に、職員が共同して、よりよい学童保育のためによりよい「職場」をつくっていくことは欠かせません。そして、指導員の学びあい、支えあいが必要です。指導員会を活発にするための活動についても交流し、課題について深めます。

〇討議の柱立て

・指導員のおかれている状況　それぞれの「職場」の実態
・地域の指導員会の役割
・一人ひとりがよりどころと実感できる職場づくりの課題